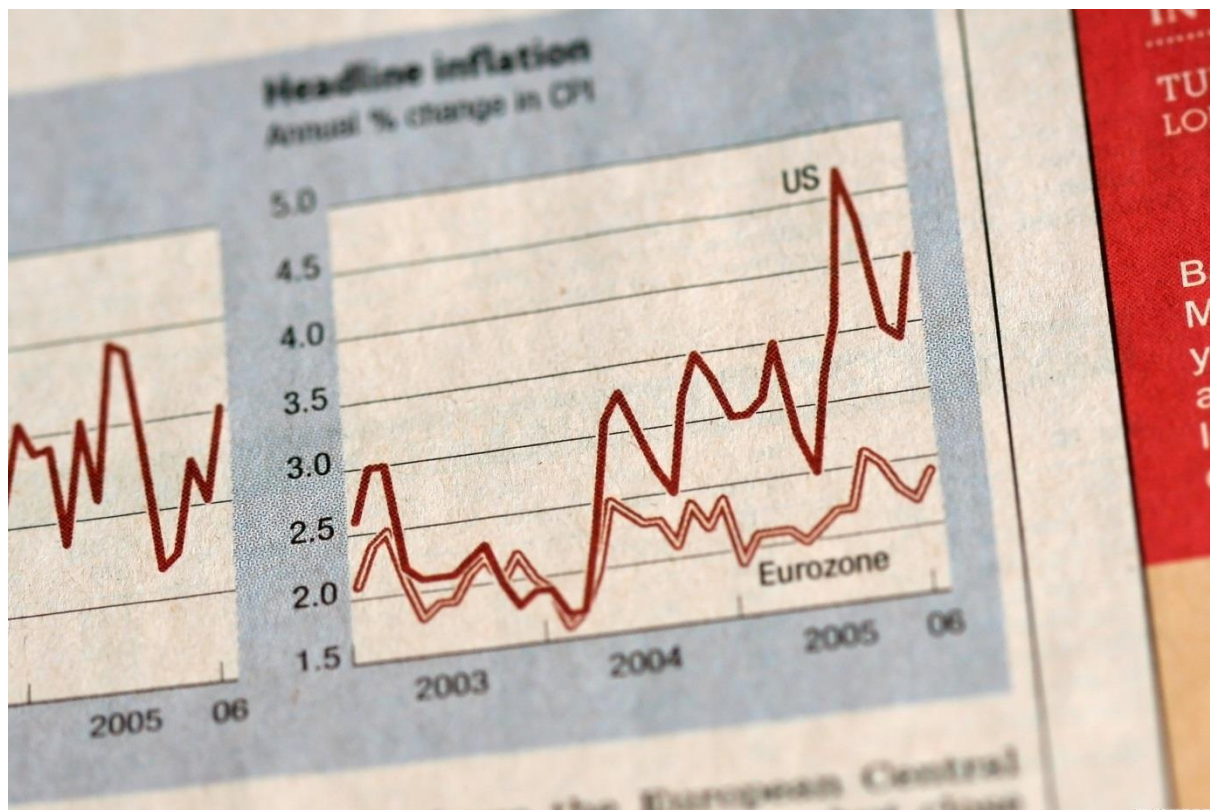


週間展望(10/18~10/24)

~ WEEKLY FORECAST ~

調査課

菊川 弘之



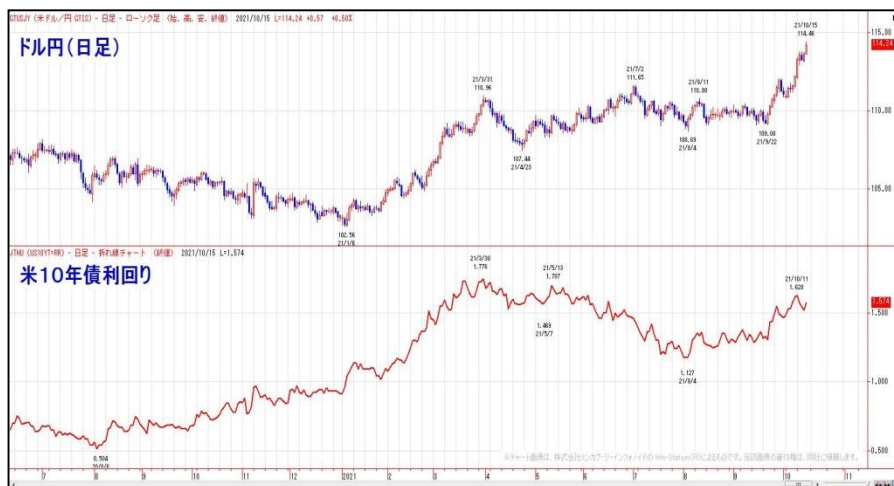
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/18～10/24)

～ドル円～

調査課

菊川 弘之

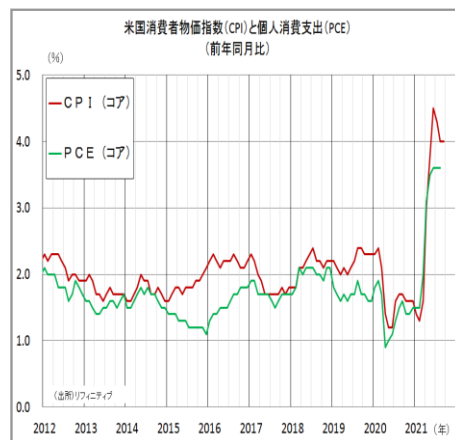


【前週レビュー】

- 先週レポートで「米10年物債利回りは、約4ヶ月ぶりの水準まで上昇した。日米金利差拡大観測が、円安ドル高要因となっているが、景気回復観測ではなく、インフレ警戒感の高まりが主因となると、悪い金利上昇となるリスクがある。～中略)。それらを見極める上でも、原油を始めとするエネルギー価格動向と共に、13日の9月の米消費者物価指数、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(21～22日に開催分)、14日の9月の米生産者物価指数が注目。2017年以降は115円が、2019年以降は114.50円が上値抵抗として機能している。」としたが、先週は、米消費者物価と生産者物価は、いずれも高い伸びを維持し、原油高もあり、インフレ警戒が高まっており、金利上昇・ドル買い円売りの展開となった。

3年ぶりの円安水準

- 週末のドル円は、2018年10月以来、3年ぶりの円安ドル高水準となった。9月の米小売売上高は前月比0.7%増と、市場予想(0.2%減)に反して増加した。消費の回復が確認されたことで米景気の改善期待が高まった。米長期金利が上昇し、日米金利差が拡大した。
- CFTC建玉明細(10/12現在)は、76,634枚の売り越し。前週(63,694枚の売り越し)から拡大。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/18～10/24)

～ドル円～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- ドル円(週足)は、変化が起こり易い雲のねじれの時間帯(赤点線)に、底打ち反転となった。2015年高値を起点とした下降トレンドを上抜き、2017年以降、上値抵抗として機能している心理的節目115円の攻防戦となっている。
- ドル円は、1995年安値以降、安値～安値は、概ね5年～6年サイクルが確認される。2016年6月安値から5年後の2021年安値は、サイクルボトムの可能性も。RSIは、短期的な買われ過ぎ感の領域にまで上昇してきたが、2021年2月～3月にかけては、RSIなどのオシレーター系指標の買われ過ぎ感に張り付いたまま、続伸していく順張りのトレンド相場になった経緯があったことには注意。

115円の攻防戦

- 心理的節目115円を上抜けて走るか、それとも上値を抑えられ反落となるかが焦点。今週は満月や水星逆行の終了、メリマンの重要変化日など、トレンド変化(加速or反転)が起こりやすい時間帯である。上抜けた場合は、2016年12月高値の118円台が意識される。頭打ちの場合、112円台が下値支持。
- 市場テーマは、「世界的なインフレ」に移行している。原油を始めとしたエネルギー価格高騰が、冬場にかけて想定以上に長引くのではないかと警戒感が高まっている。「悪い金利上昇」からのスタグフレーションを警戒する声もある。

仏滅ジンス

- 衆院選は「19日公示—31日投開票」の日程で実施される。解散から投開票までは17日と戦後最短。公示日の19日と選挙日の31日が両日とも「仏滅」。「仏滅」に行われた総選挙は2000年6月25日、森喜朗首相の下で行われたいわゆる「神の国選挙」で自民党は38議席を失い、森政権の権力基盤は弱体化し、同年11月に加藤紘一氏、山崎拓氏らによる倒閣運動「加藤の乱」が起きた。ジンスが繰り返されるのか否か、まずは、衆院選挙前哨戦の参院静岡、山口両選挙区の補欠選挙(24日に投開票)に注目が集まる。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/18～10/24)

～ 貴金属市場(金: GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《テクニカル・サイクル面から変化が起こりやすい日柄が集中した9月末～10月初旬にかけて、NY金(12月限)は2番底を形成した。8月9日安値(1675.9ドル)が1番底、9月29日安値(1721.1ドル)が2番底候補、ネックラインは、9月9日高値(1836.9ドル)だ。～中略)。「良い金利上昇」で株価・ドルが上昇するなら、金の上値は抑えられるが、「悪い金利上昇」となるなら、株価・ドルは下落、金は強い上昇を見せるだろう。
- 内外共にレンジをブレイクしてくるまでは、押し目買い主体の逆張り戦術で》としたが、先週のNY金(12月限)は、石炭高などが背景に9月の中国の生産者物価指数(PPI)が前年同月比10.7%上昇と、1995年11月以来の高い伸びとなり、インフレ懸念が材料視された。米新規失業保険申請件数が前週から減り、29.3万件と市場予想(31.8万件)を下回った。9月の米卸売物価指数(PPI)は前月比0.5%上昇と、伸びは8月(0.7%)から鈍化し、市場予想(0.6%)も下回ったことから、米債券市場で米長期金利が低下した事もあり、急伸。
- JPX金はレンジは6月高値を起点とした下降トレンドを上抜いたが、NY金は抜け切れず。
- 先週末のNY金(12月限)は、反落。9月の米小売売上高が強く、米長期金利が一時前日比0.06%高い1.57%を付けた事や、暗号資産(仮想通貨)のビットコイン価格が約半年ぶりに6万ドル台を回復したことなどを嫌気した。来月の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、資産購入ペースの縮小が発表される見通しのなか、堅調な米経済指標は金融政策の正常化が続くことを連想させた。
- 200日移動平均線で上値が抑えられた一方、基準線で下値が支えられた。
- CFTC建玉明細(10/12現在)は、185,539枚の買い越し。前週(182,582枚の買い越し)から拡大。
- 15日のSPDRゴールドの現物保有高は、前日比2.62トン減の980.10トン。

内外相場で、
強弱感に温度差

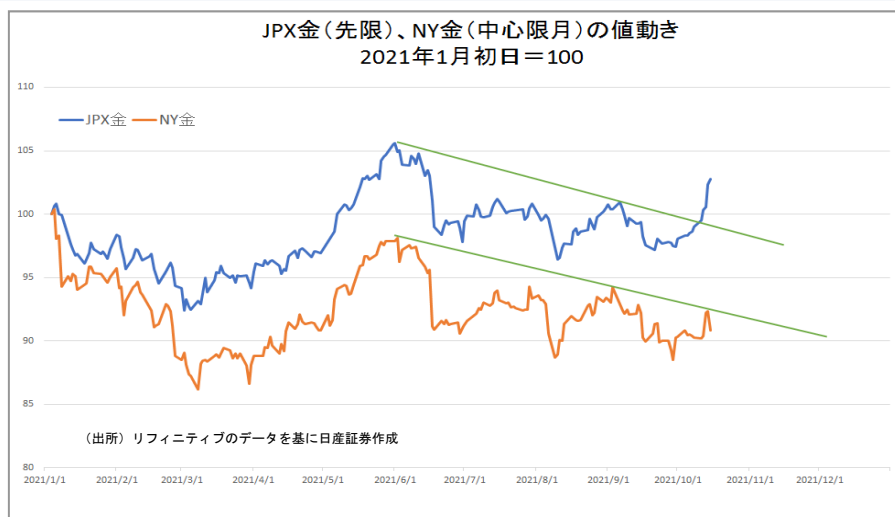
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/18～10/24)

～ 貴金属市場(金: GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 「インフレは一時的」との見方を崩していないFRBの思惑に反して、エネルギー価格の高止まりで、「悪い金利上昇」に陥るリスクを、少しずつ市場は警戒し始めてきた。
- JPX金は、6月高値を起点とした下降トレンドや、ダブルボトムのネックライン(9/6高値:6460円)、7月以降、上値抵抗として機能していた心理的節目6500円などを上抜き、上げ加速となったが、マザーマーケットであるNY金は、6月高値を起点とした下降トレンドに上値が抑えられ反落した。

- JPX金は、バンドウォーク形成中。今年のGW同様、保含いを%Bのクロスと共に上放れた。GWの上放れ局面では、+2σ突破で短期調整が入っても、深押しせず、+1σが下値支持となり、6月2日高値までの大幅続伸となった。



SECによる暗号資産
ETF承認の行方に注目

- JPX金は11陽連となり、RSIなどのオシレーター系指標は、短期的な買われ過ぎ感を示唆しており、NY金の反落で短期調整が予想されるが、下値は、ボリンジャーバンドの+1σ～21MA、価格帯別出来高の厚い6350円～6450円水準などは、強力な支持帯となりそうだ。
- インフレ懸念の高まり・悪い金利上昇を織り込む格好で、押し目は買われそうだが、要注意は暗号資産(ビットコイン)の動き。米証券取引委員会(SEC)がビットコイン関連のETF(上場投資信託)を近く承認するとの観測が強まり、買いが膨らんでいる。承認なら金から、一部資金シフトも要想定。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/18～10/24)

～ 貴金属市場 (白金: Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「内外共に、9月に目先の底打ちを確認した格好となっている。一方、2月高値を起点とした下降チャネルも継続している。」
- NY白金(1月限)は、1030ドル水準、JPX白金(先限)は、3650円水準のネックラインを、終値ベースで上抜いてくると、逆三尊の底打ち確認となり、中勢トレンドでの大底確認となる。同水準の攻防が焦点。
- ～中略)。ネックラインを上抜いてくるまでは、押し目買い・噴き値売りスタンスで。原油市場のように、長期需給見通し(弱気)と短期需給見通し(強気)の、ミスマッチが起きてこない、上値は抑えられ易いか?。インフレ懸念の高まりと共に株価が金利上昇を嫌気すると、白金系も追随しやすい」としたが、先週は、金急伸や株高を受けて押し目を買われ、内外共にネックライン越えから、上げ加速となった。
- 先週末のNY白金(1月限)は、続伸。9月の米小売売上高が堅調だったことを受けた株高を好感した。コロナショックや米金融政策の正常化を乗り越えつつ、景気回復が続くと期待されている。テクニカル的には、1000ドル以下で底打ち確認、ダブルボトムや逆三尊の底打ちパターンが意識されている。
- 一方、米長期債利回りの上昇がドル高・金売りとなった事は上値抑制要因。10月の米ミシガン大学消費者信頼感指数・速報値は低調で、長期化する半導体不足で自動車生産が引き続き圧迫されていることは触媒向けのプラチナ需要を抑制している。
- CFTC建玉明細(10/12現在)は、10,919枚の買い越し。前週(5,515枚の買い越し)から拡大。

米デフォルトリスク&
自動車部品供給リスク
一服による株高を好感

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/11～10/17)

～ 貴金属市場(白金: Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 国際通貨基金(IMF)世界経済見通しによると、供給網の混乱と物価上昇圧力が新型コロナウイルス危機からの回復を阻害しているとして、米国、中国、日本など主要国の成長率予想を引き下げた。
- 2021年の世界経済の成長率予想は5.9%と7月時点の6.0%から下方修正。米国が6.0%と前回予想の7.0%から引き下げられた。米経済に関し「見通しは強く、潜在成長を上回る持続的な回復を遂げる」と予測。連邦準備制度理事会(FRB)は21年内に資産購入を通じた量的緩和策の縮小に着手し、22年遅くの利上げに備える必要があるとした。
- 2021年の日本の成長率は2.4%と、7月の前回予測から0.4ポイント引き下げた。一方、22年の成長率は3.2%と、0.2ポイント上方修正。
- 中国については、公共投資が予想より圧縮されたことを踏まえ、若干下方修正。国際通貨基金(IMF)は12日、世界の金融システムの安定度を分析した報告書を発表。中国不動産開発大手・中国恒大集団について「デフォルト(債務不履行)への懸念が市場で高まっている」と指摘。中国経済をけん引してきた不動産業界全体に危機が波及すれば「世界の資本市場に影響を及ぼす」と警告した。
- テクニカル的には底打ち・好転し始めた白金相場だが、中国不動産大手恒大の利払い猶予期間が今後、相次いで迫ってくる。トヨタ自動車は、半導体不足や中国での電力不足が響き、11月の世界生産を直近の生産計画から15%程度減らすと発表しており、現在形成されているボリンジャーバンドのバンドウォークが崩れた場合、深めの調整も要想定。
- 供給サイドからは、南ア・無期限ストの行方にも注意。

トヨタ世界生産計画 下方修正

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/11～10/17)

～ ゴムRSS 3号先物～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《先限つなぎ足では、終値ベースで、230.2円(8/19高値)を上抜くと、2月高値を起点とした下降チャネルを上抜き、週足で形成した三尊天井のネックライン(チャート緑点線)を試す流れに。一目均衡表からの上値目標は、V=239.2円、N=247.6円。独自要因よりも、原油と株価動向に左右される地合いが継続見通し。》としたが、先週は原油高・株高・円安に支援され、237.1円(10/13先限高値)まで上値を伸ばした。
- 全国生ゴム営業倉庫在庫は、9月10日現在11,564トン(前旬比538トン増)。9月上旬の入出庫は入庫1,317トン、出庫779トン。

【今週見通し・戦略】

- トヨタ自動車は11月の世界生産を直近の生産計画から15%程度減らす。半導体不足や中国での電力不足が響き、約15万台減となる。9～10月にも東南アジアで新型コロナウイルス感染が再拡大し部品の調達に滞ったことから、生産台数を計画から4割減らした。
- 11月は減少幅が縮小し、2021年度の世界生産計画(900万台)は修正しない見通し。12月以降の正常化と挽回を目指す、不透明な要因は多い。
- 9月下旬にまとめた最新の11月の生産計画から、国内で約5万台、海外でも5万～10万台減らす。東南アジアの新型コロナの感染状況が落ち着き、自動車部品の生産は戻りつつあるが、11月も影響が残る。中国で起きた電力不足による部材生産の低迷も響いた。20年11月実績(82万台)と同水準の生産台数になる模様。
- 円安・株高・原油高が支援要因だが、トヨタ減産は上値抑制要因。ボリンジャーバンドのバンドウォークが継続するか否かに注目。

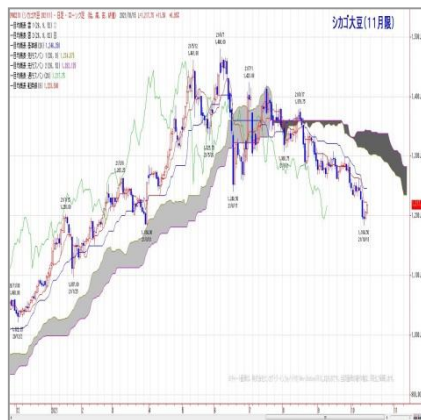
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/18～10/24)

～ 穀物市場 (大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週のシカゴ大豆は、大幅続落。米農務省(USDA)需給報告で21/22年度の生産量予測が事前予想を上回ったことや、期末在庫率が大幅上方修正となったことが弱材料となり、12ドル割れとなった。
- シカゴコーン(12月限も反落。USDA需給報告で21/22年度のイールド(単収)、及び生産量が上方修正されたことを受け、期末在庫率が2ケタを回復するとの見通しを示されたことが弱材料となった。

【今週見通し・戦略】

安値で需要が喚起

- 米農務省(USDA)需給報告の弱気を受けて、両銘柄とも続落となったが、大豆は12ドル、コーンは5ドル水準が下値支持となり、前週末にかけて切り返しの動きを見せている。安値で需要が喚起されており、週間輸出成約高が100万トンを超えて好調。デイリー報告でも大口の輸出成約が発表されている。需給報告で強気だった小麦も、ブレインズの長期的な干ばつで上昇している。
- 週間純輸出成約高(10月7日までの週)
 - 大豆: 114万7800トン(事前予想レンジ: 60万～142万トン)
 - コーン: 104万3500トン(事前予想レンジ: 70～162万トン)
- ハーベストプレッシャー(収穫期の下げ圧力)で上値は抑えられそうだが、大豆は12ドル、コーンは5ドル水準が下値支持として意識されそう。中長期での押し目買いスタンス継続。
- 大豆CFTC建玉明細(10/12現在)は、41,990枚の買い越し。前週(51,401枚の買い越し)から縮小。
- コーンCFTC建玉明細(10/12現在)は、279,288枚の買い越し。前週(297,005枚の買い越し)から縮小。

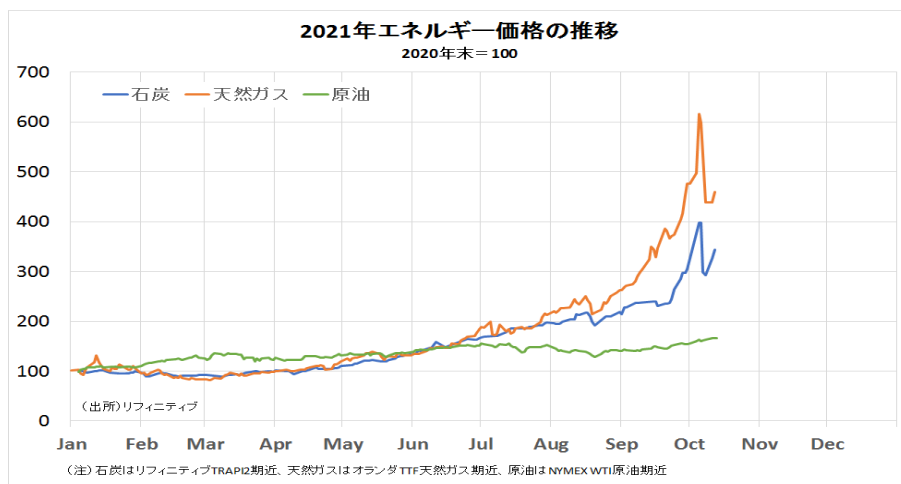
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/18～10/24)

～ 原油市場（ドバイ原油・CME原油指数）～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「原油は7年ぶりの高値だが、7年前の2014年に100ドル台で推移していた原油価格が2015～2016年にかけて、20ドル台まで大暴落した事が、原油施設に対する投資減少の一因。その後、コロナ危機による需要減少、「脱炭素」の動きに伴う投資減少が加わっており、足元の価格が上昇したからと言って、直ちに増産できるものでもない。今後、北半球での厳冬や、具体的な供給リスクを伴う中東の地政学リスクが発生した場合、WTI100ドルは通過点に過ぎなくなるかもしれない」としたが、先週は、国際エネルギー機関(IEA)月報で、今年や来年の需要見通しを上方修正した事や、サウジアラビアが追加増産は必要ないとの認識を示したことが相場を押し上げた。

7年ぶりの高値更新

- 先週末のNY原油(11月限)は、続伸した。一時、82.49ドルと期近物として7年ぶりの高値を付けた。バイデン米政権が15日、米国に入国する外国人旅行者への入国制限を11月8日に撤廃すると発表。入国を原則禁止していた国からも新型コロナウイルスのワクチン接種証明があれば入国できるようになり、ジェット機燃料などエネルギー需要が拡大するとの観測を誘った。
- 9月の米小売売上高が市場予想に反して増え、堅調な米景気を受けた株高・原油需要の拡大観測も相場を支えた。
- 前日発表された国際エネルギー機関(IEA)月報で、2021～22年の世界の石油需要見通しを上方修正した。天然ガスや石炭の価格上昇で代替エネルギーとして石油需要が増えるとの見方が示され、世界的なエネルギー不足を背景とした需給の引き締まりを意識した買いが継続した。
- CFTC建玉明細(10/12現在)は、404,776枚の買い越し。前週(398,307枚の買い越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/18～10/24)

～ 原油市場（ドバイ原油・CME原油指数）～

調査課

菊川 弘之

【今週見通し・戦略】

- 米エネルギー情報局(EIA)週報で、原油在庫は市場予想を大きく上回り3週連続で増加したが、製油所稼働率が前週の89.6%から86.7%まで低下したことが背景で弱気視されていない。季節的に夏場の需要期が終わったこの時期は製油所の定期改修が行われることから、製油所への原油投入量が減少する傾向にあり、市場の想定内。

- OPEC月報では2021、2022年ともに日量8万バレルほど世界の需要見通しを引き下げた。EIAも2021年の米需要見通しを日量7万バレル、2022年については同20万バレル下方修正した。一方、国際エネルギー機関(IEA)月報で、世界的なエネルギー不足で石油需要が増加すると予測。

- IEAは「石炭・ガスの記録的な高値や計画停電を背景に、電力部門とエネルギー集約型産業が、操業継続のため、石油に依存するようになっている」と指摘。世界の石油需要は来年、新型コロナ流行前の水準に回復するとした。

- 今年の石油需要の伸び見通しを17万バレル引き上げ550万バレル、来年の伸び見通しを21万バレル引き上げ330万バレルとした。

OECD在庫は低水準

- 需要急増を受けて、在庫減少幅は8年ぶりの高水準を記録。経済協力開発機構(OECD)の在庫水準は2015年初め以来の低水準になっている。

- IEAは「8月の暫定データで、中国、日本、パキスタン、ドイツ、フランス、ブラジルなど多くの国で発電所向けの燃料油、原油、中間留分燃料の需要が季節外れに高まっていることがすでに示されている」とした。

- また、石油輸出国機構(OPEC)プラスの今年第4・四半期の生産量が推定需要を日量70万バレル下回ると予測。少なくとも年内は需要が供給を上回るとの見通しを示した。

- OPECプラスの余剰生産能力は急速に縮小し、今年第1・四半期の日量900万バレルから22年第2・四半期にはわずか400万バレルになると想定。中東地域のごく一部の国に集中している余剰生産能力の縮小は、将来の需要を満たすために投資を拡大する必要があるとした。

投機的過熱感は低い

- 価格上昇の割に、大口投機玉の買い越しは40万強(1枚=1000バレル)。2018年には70万枚を超える場面もあったことを考えると、現時点で、投機的な過熱感は低い。脱カーボンの潮流の中、OPECやシェール業界が生産能力拡大に及び腰であり、直ちに原油供給が増えそうになく、中東の地政学リスクも潜在する中、最大需要期の冬季に向けて、押し目を買う動きは継続しそうだ。

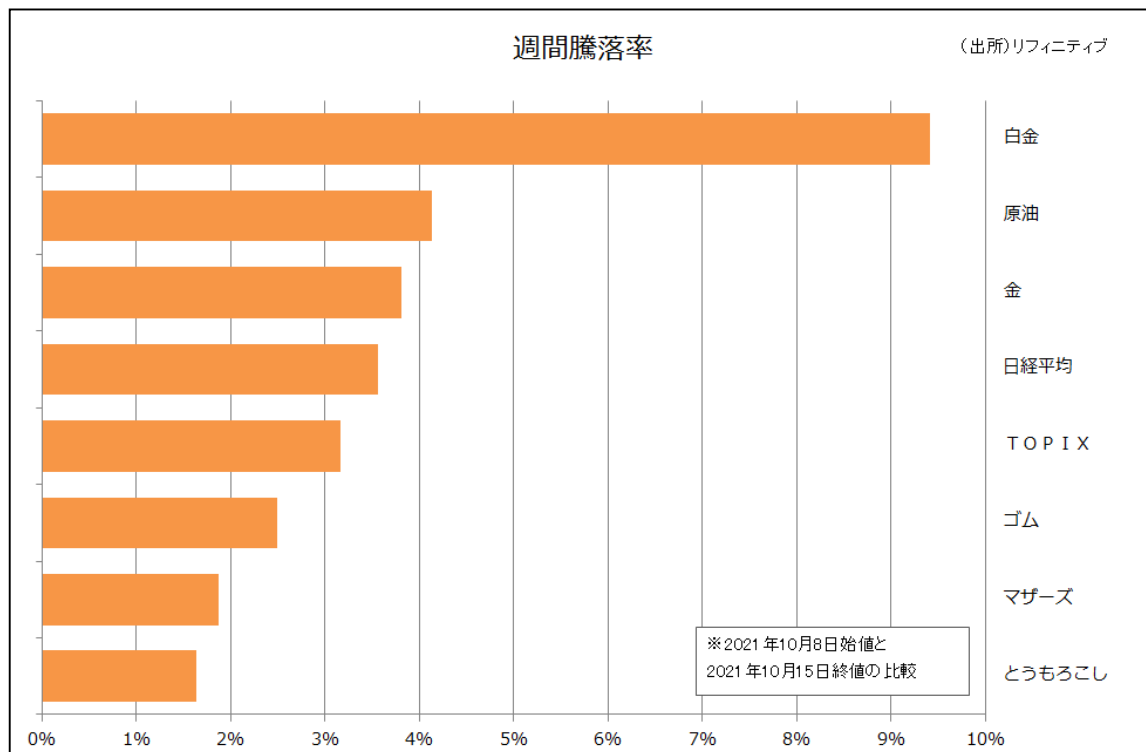
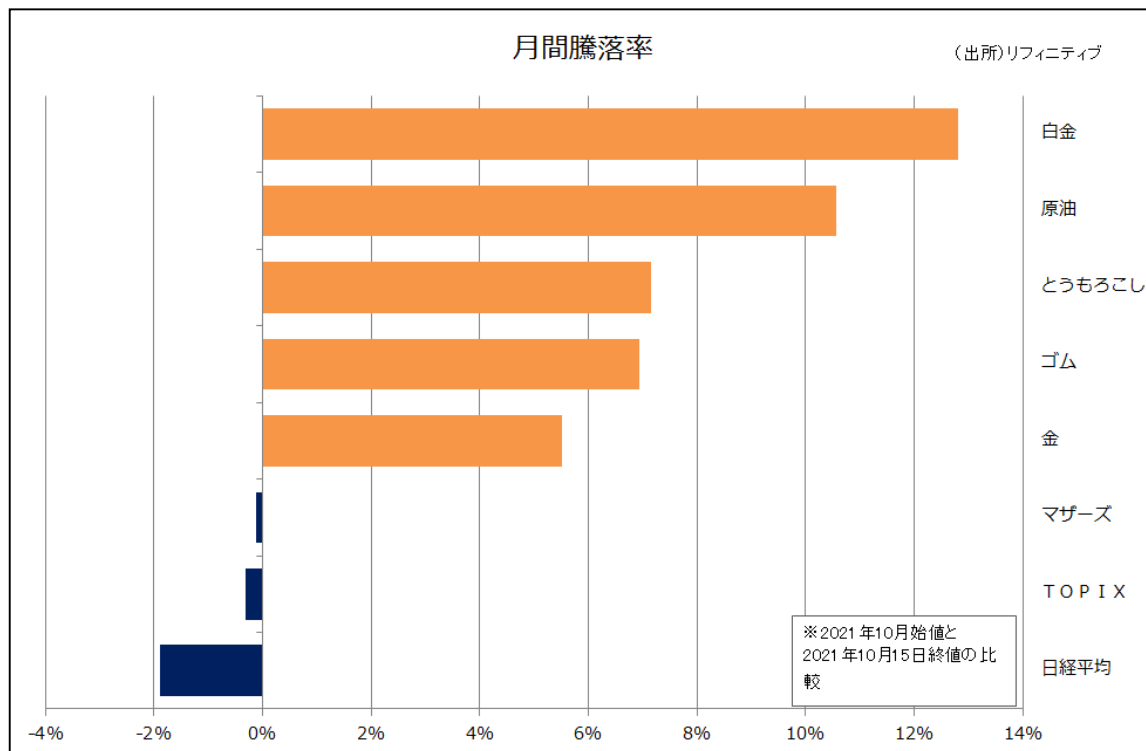
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(10/18~10/24)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回	事前予想
10月18日(月)	11:00	大陸部	9月	固定資産投資(前年比)	8.9%	7.9%
	11:00	大陸部	9月	鉱工業生産(前年比)	5.3%	4.5%
	11:00	大陸部	9月	小売売上高(前年比)	2.5%	3.3%
	11:00	大陸部	Q3	国内総生産(GDP)(前年比)	7.9%	5.2%
	11:00	大陸部	Q3	国内総生産(GDP)(前期比) 季調値	1.3%	0.5%
	22:15	米国	9月	鉱工業生産(前月比)	0.4%	0.2%
	22:15	米国	9月	設備稼働率 季調値	76.4%	76.5%
10月19日(火)	23:00	米国	10月	NAHB 住宅市場指数	76	76
	21:30	米国	9月	建設許可件数	1,721(百万)	1,720(百万)
	21:30	米国	9月	住宅着工件数	1,615(百万)	1,630(百万)
10月20日(水)	8:50	日本	9月	輸出(前年比)	26.2%	11.0%
	8:50	日本	9月	輸入(前年比)	44.7%	34.4%
	8:50	日本	9月	貿易収支	-635.4(十億)	-519.2(十億)
	15:00	ドイツ	9月	生産者物価指数(PPI)(前年比)	12.0%	
	15:00	英国	9月	消費者物価指数(CPI)(前月比)	0.7%	
	15:00	英国	9月	消費者物価指数(CPI)(前年比)	3.2%	
	15:00	英国	9月	小売物価指数(前月比)	0.6%	
	15:00	英国	9月	小売物価指数(前年比)	4.8%	
	15:00	英国	9月	小売物価指数 除住宅金利(前年比)	0.7%	
	15:00	英国	9月	生産者物価投入指数(PPI)(前年比) 庫数値	0.4%	
	15:00	英国	9月	生産者物価産出指数(PPI)(前年比) 庫数値	11.0%	
	15:00	英国	9月	生産者物価指数(PPI) コア産出指数(前年比) 庫数値	5.9%	
	18:00	ユーロ圏	9月	EU 基準消費者物価指数(HICP) 改定値(前月比)	0.4%	0.5%
	18:00	ユーロ圏	9月	EU 基準消費者物価指数(HICP) 改定値(前年比)	3.4%	3.4%
	18:00	ユーロ圏	9月	EU 基準消費者物価指数(HICP)(食品・エネルギー・酒・タバコ除) 改定値(前年比)	1.9%	1.9%
10月21日(木)	納金	米国	—	NY原油2021年11月限納金		
	19:00	英国	10月	GfK 動向 - 受注		
	21:30	米国	10月11日	新規失業保険申請件数		
	21:30	米国	10月4日	継続失業保険受給総数		
	21:30	米国	10月	フィデリティ連銀 業況指数		
	23:00	米国	9月	中古住宅販売戸数	5.88(百万)	6.00(百万)
	23:00	米国	9月	中古住宅販売増減率	-2.0%	
	23:00	ユーロ圏	10月	消費者信頼感指数 速報値	-4.0	
	8:01	英国	10月	GfK 消費者信頼感指数		
	8:30	日本	9月	全国コア消費者物価指数(CPI)(前年比)	0.0%	0.1%
10月22日(金)	8:30	日本	9月	全国消費者物価指数(CPI) 総合(前年比)	-0.4%	
	15:00	英国	9月	小売売上高(前月比)	-0.9%	
	15:00	英国	9月	小売売上高 除燃料(前月比)	-1.2%	
	15:00	英国	9月	小売売上高(前年比)	0.0%	
	15:00	英国	9月	小売売上高 除燃料(前年比)	-0.9%	
	16:30	ドイツ	10月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	58.4	56.7
	16:30	ドイツ	10月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 速報値	56.2	55.0
	16:30	ドイツ	10月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	55.5	
	17:00	ユーロ圏	10月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	58.6	57.5
	17:00	ユーロ圏	10月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 速報値	56.4	55.5
	17:00	ユーロ圏	10月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	56.2	
	17:30	英国	10月	総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	54.9	
	17:30	英国	10月	製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	57.1	
	17:30	英国	10月	サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 速報値	55.4	
	22:45	米国	10月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	55.0	
	22:45	米国	10月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	60.7	
	22:45	米国	10月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 速報値	54.9	
	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細		
10月23日(土)						
10月24日(日)						

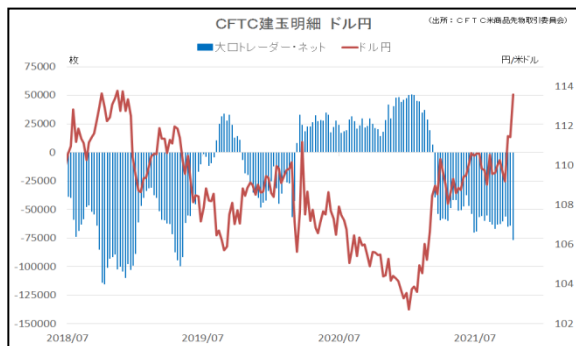
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

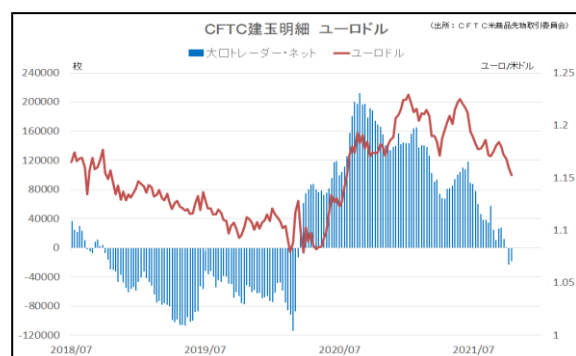


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

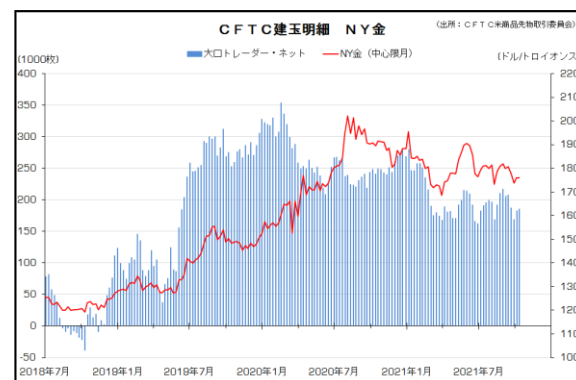
【CFTC建玉明細】



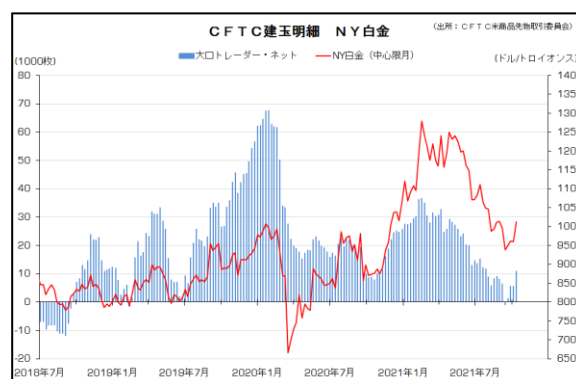
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/14	21,728	82,023	-60,295	109.67
2021/9/21	22,844	78,915	-56,071	109.21
2021/9/28	35,328	100,088	-64,760	111.5
2021/10/5	31,569	95,263	-63,694	111.45
2021/10/12	35,810	112,444	-76,634	113.6
前週比	4,241	17,181	-12,940	2.15



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/14	186,554	158,749	27,805	1.1802
2021/9/21	189,406	177,311	12,095	1.1723
2021/9/28	195,043	194,171	872	1.1681
2021/10/5	196,819	219,153	-22,334	1.1596
2021/10/12	202,512	220,910	-18,398	1.1527
前週比	5,693	1,757	3,936	-0.0069



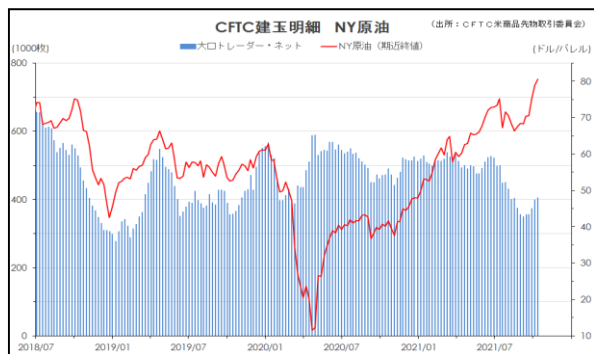
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/14	306,988	99,228	207,760	1807.1
2021/9/21	296,670	109,023	187,647	1778.2
2021/9/28	293,814	125,415	168,399	1737.5
2021/10/5	295,939	113,357	182,582	1760.9
2021/10/12	298,503	112,964	185,539	1759.3
前週比	2,564	-393	2,957	-1.6



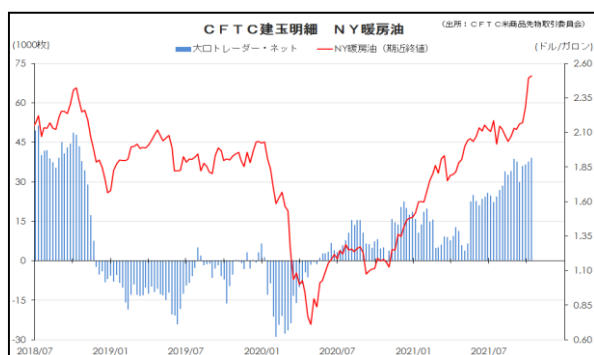
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/14	33,649	34,716	-1,067	938.7
2021/9/21	33,230	32,012	1,218	950.8
2021/9/28	31,908	26,255	5,653	961.9
2021/10/5	32,414	26,899	5,515	959.8
2021/10/12	31,711	20,792	10,919	1011.7
前週比	-703	-6,107	5,404	51.9

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

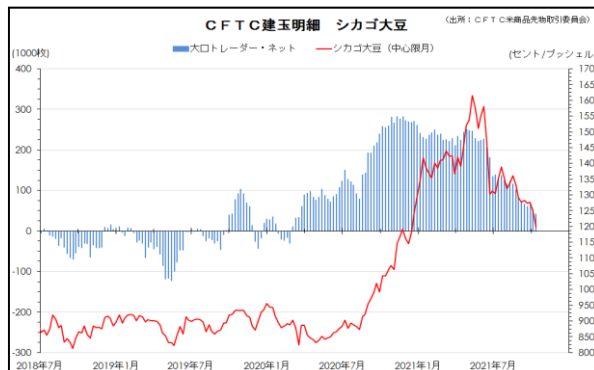
【CFTC建玉明細】



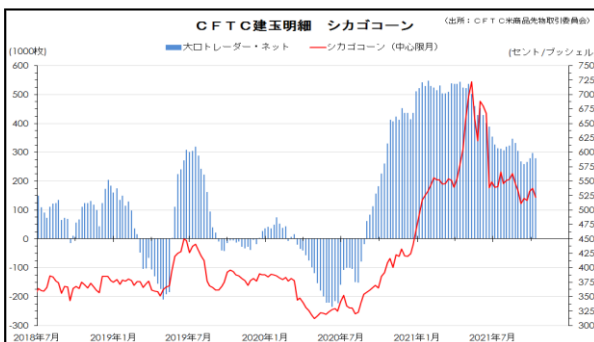
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/14	512,626	157,562	355,064	70.46
2021/9/21	506,363	150,385	355,978	70.49
2021/9/28	527,523	153,709	373,814	75.29
2021/10/5	548,561	150,254	398,307	78.93
2021/10/12	564,001	159,225	404,776	80.64
前週比	15,440	8,971	6,469	1.71



NY暖房油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/14	66,553	36,562	29,991	2.1613
2021/9/21	75,893	40,003	35,890	2.171
2021/9/28	72,075	35,485	36,590	2.286
2021/10/5	72,173	34,625	37,548	2.4936
2021/10/12	72,833	33,696	39,137	2.51
前週比	660	-929	1,589	0.0164



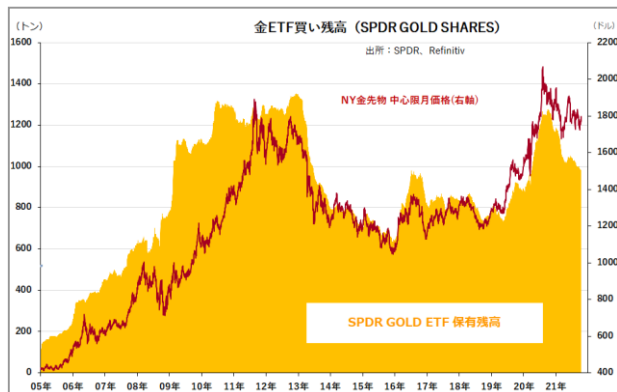
シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/14	143,116	77,361	65,755	1282.50
2021/9/21	138,867	77,813	61,054	1274.00
2021/9/28	141,105	76,385	64,720	1277.00
2021/10/5	137,547	86,146	51,401	1250.50
2021/10/12	134,258	92,268	41,990	1198.25
前週比	-3,289	6,122	-9,411	-52.25



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/14	370,349	111,715	258,634	520.25
2021/9/21	368,776	103,275	265,501	517.00
2021/9/28	386,177	107,631	278,546	532.50
2021/10/5	410,799	113,794	297,005	537.50
2021/10/12	402,726	123,438	279,288	522.50
前週比	-8,073	9,644	-17,717	-15.00

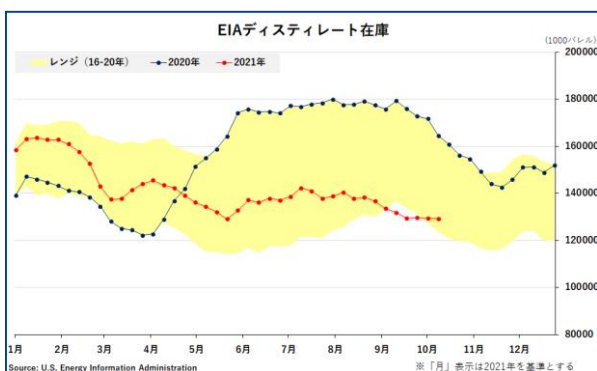
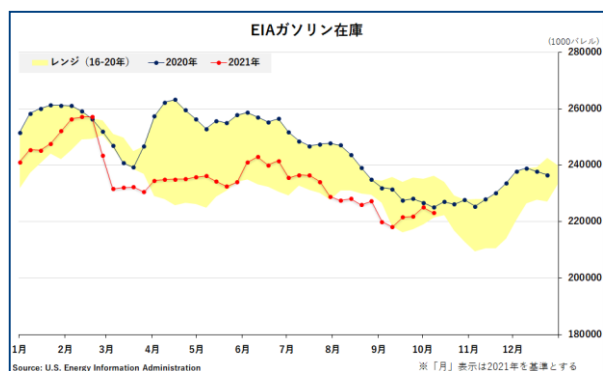
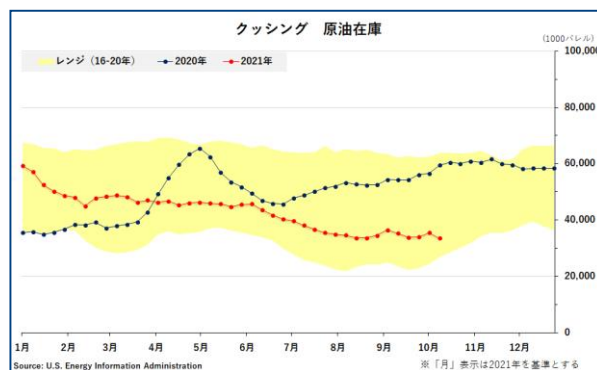
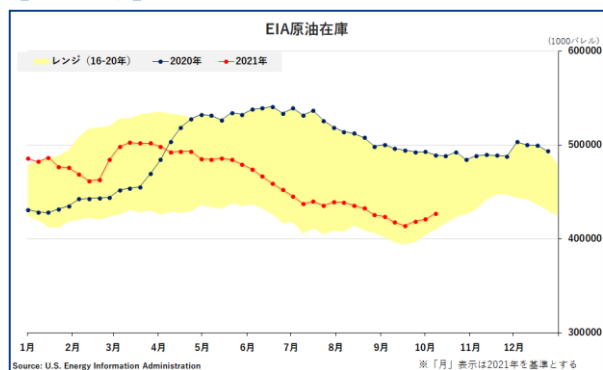
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金ETF (SPDR)】



日付	金保有高(トン)	前営業日比
2021/10/15	980.10	-2.62
2021/10/14	982.72	±0
2021/10/13	982.72	-2.33
2021/10/12	985.05	±0
2021/10/11	985.05	±0
2021/10/8	985.05	-1.49
2021/10/7	986.54	±0

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

日産証券株式会社